

# 校長室からのお知らせ

12月2日号 NO.31

岸和田市立山直北小学校  
校長 尾野 武志

## 師走

「師走」の「師」は教師（学校の先生）の「師」ではなく、お坊さまのことになるそうです。いつもは落ち着いているお坊さまでも、12月は先祖の供養や法要などが数多くあり、走り回るほどに忙しい月だということ、「師走」と言われるようになったそうです。

12月は、ほかにも様々な呼び方があるそうで、1年の終わりの月だということ、「極月（ごくげつ・ごくづき・きょくげつ・きわまりづき・きわまるつき）」や「限りの月（かぎりのつき）」とも呼ばれるそうです。また、1年が終わるのではなく、積み重なるという考えから「年積月（としつみづき・としつもづき）」や「年世積月（としよつむつき）」ともいわれるそうです。

また、「春待月（はるまちづき）」というのもあるそうです。昔は、新年が春の始まりでもあったので、「春を心待ちにする月」と優雅な呼び方もできたようです。

私事になりますが、12月は特別感があり、57歳になった今でもワクワクしてしまいます。特に年末は、落ち着かず意味もなくウロウロして家族から怒られることが多かったのですが、ここ数年は年末年始を三重県の伊勢市で過ごすことが恒例になってきて、怒られることが減りました。

大みそかに、夫婦岩で有名な二見に向かい、本来は海水に浸かって禊（みそぎ）を済まさなければいけないところを二見興玉神社（ふたみたまおきじんじゃ）を参拝することで、禊とさせてもらいます。そして、一般的に外宮（げくう）といわれる豊受大神宮（とようけだいじんぐう）を先に参拝してから、内宮として親しまれている皇大神宮（こうたいじんぐう）をまわります。元旦の7時半頃に、伊勢神宮の内宮（ないくう）の宇治橋の大鳥居から昇る美しい初日の出を拝み、そして大みそかと同じコースを再度たどりまします。伊勢神宮では、「個人的なお願い事をしてはいけない」と聞いたことがありますので、大みそかには「毎日の感謝の気持ち」、元旦には「世界や国が平和になりますように」を伝えるようにしています。今回の「校長室からのお知らせ」は私のどうでもいい話になり、申し訳ございません。